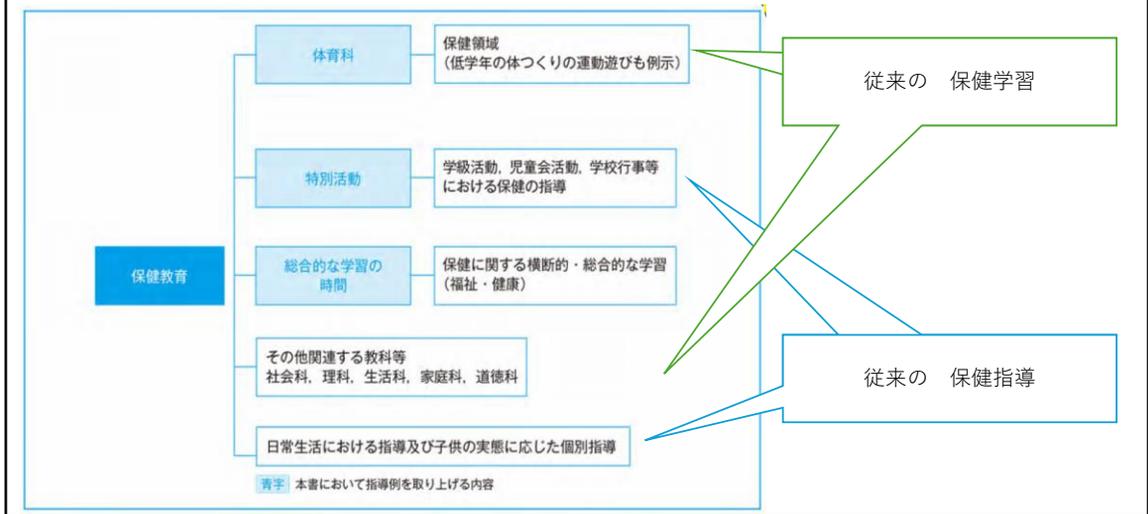


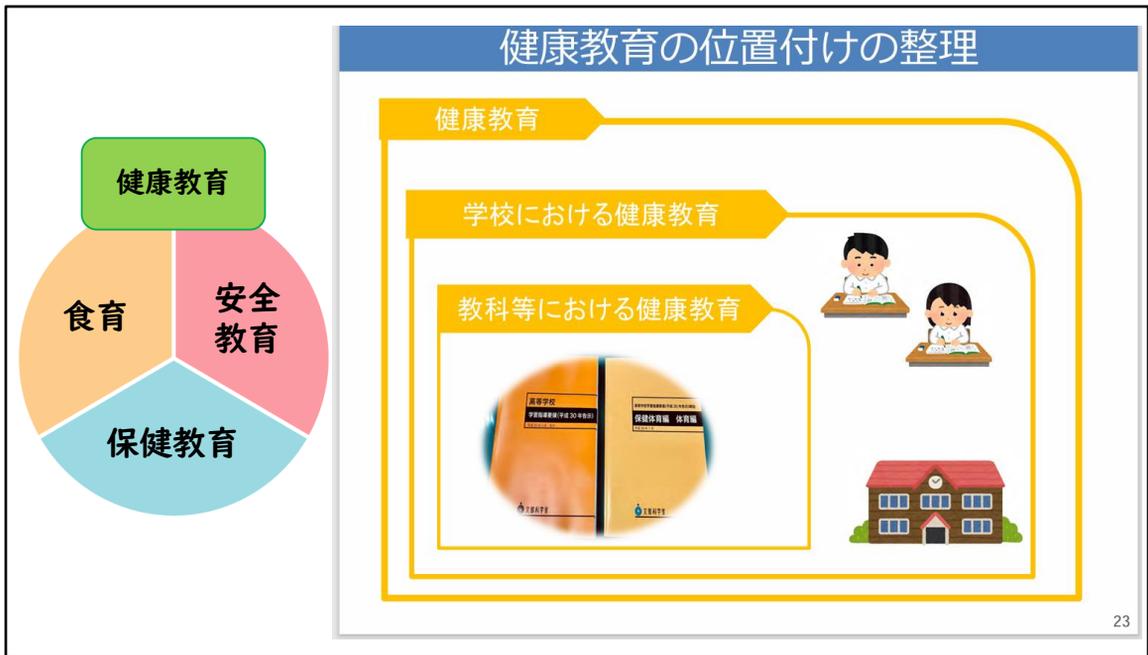
多様な指導方法による 主体的な保健学習を目指して



以前、保健教育は教科保健における保健学習とそれ以外の場で実施される保健指導に大別されていました。

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、教職員や一般の方に分かりやすいよう教科等の名称を用いることになりました。

こちらの図は保健教育の体系を示しています。



保健教育と並んで、健康教育という言葉もよく聞かれますが、保健教育だけでなく食育、安全教育を含む健康や命に関わる教育の総称として健康教育と定義されているようです。

学校における体育・健康に関する指導は、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいても、それぞれの特質に応じて適切に行うように努めること。と学習指導要領にも記載されています。

食育・安全教育・保健教育は教育活動全体を通じて指導されるべきものであり、一層の充実を図るため、各学校で全体計画の作成が義務づけられています。

今回は、集団への保健教育 保健体育の保健での展開例を提案します。

小学校5年生「けがの予防」展開例

1 今まで起きたけがについて振り返る。

- (1) 最近または今までに起きたけがについて振り返る。
- (2) けがが起こる原因をいくつかの事例を通して考える。



2 けがのレポートを作成する。(個別最適な学び)

- (1) 一人一つのけがについて1枚作成する。
- (2) 今まで起きたけがの中から作成するけが、場所を決める。
- (3) 同じ場所で撮影する人同士協力して写真を撮影する。(協働)
- (4) 個別でレポートを作成する。(個別)

小学校5年生「けがの予防」の展開例です。4時間で学習するうちの2時間を使って取り組みます。

最近、学校でけがをする人が多いことを伝え、けがを予防するためにレポートを作成してほしい。と最初に目的意識を持たせるといいです。

まずは、自分の身に起きたけがに、どんなものがあるか振り返らせます。

その後、事例を通じてけがの起こる原因には人の行動(心・体の状態)と環境の要因があり、それを整えることでほとんどのけがを防ぐことができることに気づかせます。

過去のけがや事故の事例は、過去の実際の事故報告書などを参考にすると、より実感がわき、自分たちの生活と結び付けて考えることができます。

次に、一人一つのけがについて、レポートを作成します。まずは、今まで起きたけがから自分レポートを作成するけがを考え、写真を撮りに行く場所を決めます。

写真の撮影については、一人で撮影するのは難しいので、同じ場所で撮影する友達と協力しながら、よりリアルな写真が撮れるよう協力します。

その後、どこで、どのようなけがが起きたのか。原因は何か。どうしたらけがをせずに済むか。個別でじっくりと取り組みます。

レポートの作成はICTを活用して行うことも考えられます。

小学校5年生「けがの予防」展開例

3 けがのレポートを 発表する

班での発表（協働）

↓
他学年、学校全体への展開

5年保健「H:\Data\2740320_東葛飾教育事務所5に保存済み」

けがをした場所
職員室

どんなけがでしたか?
指をはさんだ(だばく?)

けがの写真
イタッ!!
この後保健室でシップをはって1週間くらい痛かったよ

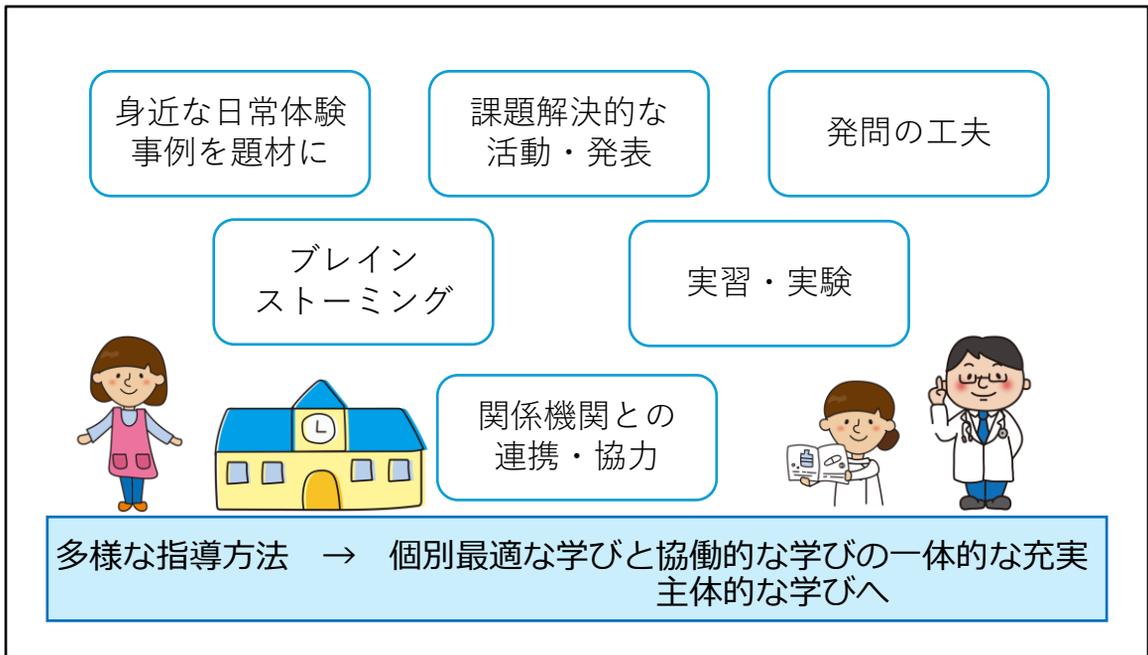
どうしてけがをしてしまったのだろうか?
人の行動(人の状態や体の様子)
・ドアを全開にできなかったから。
・ワゴンのはじを持っていたから。
・ポーっとして不注意だったから。
・よそ見をしていたから。
原因
・ドアのはばがせまくてワゴンがギリギリ通くらいだから。

どうしたらけがをしないですか?
よそ見をしないようにしましょう。
持つ所の真ん中を持つといいかも。
ドアがちゃんと全開になっているか確認してワゴンを出すようにしましょう。

レポートが完成したら、班の中で作成したレポートを発表します。さらにアドバイスをもらって追加をしたり、修正をしたりしていきます。班での発表だけでなく、動画などを作成し、校内放送などで呼びかけたりすると、学びをさらに広げることができます。レポートを保健室の掲示板や学年の掲示板等に掲示したりするのもいいですね。

ルーブリック評価例

	A	B	C
思考判断表現	<p>①自分のけがに関わる経験を振り返り、けがの発生要因として人の行動（心の状態や体の調子を含む）と環境についてそれぞれ1つ以上ワークシートに記入している。</p> <p>②けがの回避方法として、人の行動（心の状態や体の調子を含む）や安全な環境を整備することについて、それぞれワークシートに記入している。</p> <p>③自分の事例についてワークシートを完成させ、班の人の事例についても危険予測をすることができ、アドバイスをしている。</p>	<p>①自分のけがに関わる経験を振り返り、けがの発生要因として人の行動と環境についてそれぞれ1つ以上ワークシートに記入している。</p> <p>②けがの回避方法として、人の行動や安全な環境を整備することについて、それぞれワークシートに記入している。</p> <p>③自分の事例についてワークシートを完成させ、班の人の事例についても危険予測をすることができる。</p>	<p>①自分のけがに関わる経験を振り返り、けがの発生要因として人の行動と環境についてどちらか1つ以上ワークシートに記入している。</p> <p>②けがの回避方法として、人の行動や安全な環境を整備することについて、1つ以上ワークシートに記入している。</p> <p>③自分の事例についてワークシートを完成させている。</p>



保健の学習では、健康課題を解決するために、知識を身に着け活用すること、その知識は何のために学んでいるのか、何の役に立つのかを考えること。そして、健康の大切さを実感できるようにし、今よりも生活の質を高める意識をもてるようにしていくことが重要です。

そのために、学習指導要領では、健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うことが示されています。

身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話合い、思考が深まる発問の工夫や思考を促す資料の提示、課題の解決的な活動や発表、ブレインストーミング、けがの手当などの実習、実験などを取り入れること、また、必要に応じて地域や関係機関と連携・協力を推進することなど多様な指導方法を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、主体的に取り組める保健学習を実践していきましょう。